

# 咲き誇れ秋田

日銀秋田支店長の目

風が吹けばおけ屋がもうかる、というこゝろがある。風が吹くと土ほこりが目に入り、目をこすり過ぎると失明する人が増える。失明した人は三味線で家計を立てようとすることから、三味線の需要が増える。三味線には胸に張る猫の皮が欠かせないため、猫が減ってねずみが増える。ねずみはおけをかけるので、おけの需要も増えておけ屋がもうかるというわけだ。ある事象の発生により、全く関係がない意外なところに影響が及ぶといったことである。

## 風力発電事業

者が決定し、地元への経済波及効果に期待する声が高まっている。とはいえ、秋田県の皆さんにとっては「風力発電なんて直接関わりもないし、何かいいことでもあるの？」と感じている方が多いのではないだろうか。あくまで空想であるが、私なりの秋田版「風が吹けばおけ屋がもうかる」はこゝろである。ま



## 経済効果つかむ行動を

調査や地元協議等を行う必要があり、数カ月から数年という長期間にわたって秋田に滞在する。彼らは働き盛りの年代で、秋田で寝泊まりし、食事をして、モノを購入する。これは、住民票はなしものの実質的な住民人口増であり、生産年齢人口増でもある。そして事業が拡大する

（注目される）。すると、世界中の皆さんがナマハゲが手に持っている謎の「バケツ」に注目する。それが日本の伝統の木おけということと世界中から問い合わせが殺到し、秋田杉の「おけ屋がもうかる」。

秋田県の皆さんにお伝えしたいのは、私の空想の面白さや確からしさではない。風が吹けばおけ屋がもうかる、のことわざ通り、秋田の「風」との関わりが意外なところから出てくるかもしれないということである。それはもうお話かもしれないし、損する話かもしれない。大切なのは、想像をたくましく、皆さんなりに「風が吹けば」を考え、必要ならば行動することである。

（真鍋隆・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉